

# ブラジル

## 投資は成長分野を見極めて

ジェトロ海外調査部中南米課 二宮 康史

ブラジルの2012年実質 GDP 成長率は、年初予測の3%台を大きく下回る0.9%にとどまった。ブラジル経済に対しては悲観的な見方もある。しかし直接投資動向を分析するとサービス業を中心に増加傾向を維持する業種も確認できる。個々の分野での景況感を見極めることが重要だろう。

### 直接投資額は高水準維持

2012年におけるブラジルへの対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比2.1%減の652億7,200万ドルだった。なお、業種別、国別データの基となる親子会社間の資金貸借を含まないグロス（引き揚げを含まない）の直接投資額（国際収支ベース、フロー）は、12.9%減の605億4,300万ドルだった。12年はブラジルの実質 GDP 成長率が0.9%増と年初に予想された3%台から大きく減速。しかし実質 GDP 成長率が6.1%を記録したリーマン・ショック直前の07年の対内直接投資額が345億8,500万ドルだったことを考えれば、12年の実績は高い水準を維持しており、直接投資動向を見る限り景気低迷の影響は限定的だったことが分かる。

業種別の投資額はどうか（表）。農業・畜産・鉱業が36.6%減の65億3,200万ドル、工業が17.1%減の222億4,300万ドルと2桁台の減少率を記録した。これに対しサービス業は1.8%減の314億300万ドルと微減にとどまった。中国経済の減速などでこれまでのコモディティ（市況商品）ブームが一段落した農業・畜産・鉱業、輸入品との競合という産業競争力に課題を抱える工業に比べ、サービス業は底堅い内需の恩恵を受け拡大したといえそうだ。

一方、12年の実質 GDP 成長率を産業要素別に見ると、農畜産業、工業がマイナスを記録したのに対し、

唯一サービス業が1.7%のプラス成長を記録している。サービス業の好調は雇用動向からも裏付けられる。雇用労働省が発表している雇用一般登録（CAGED）によれば、12年における産業全体の正規雇用純増率は3.4%増だった。業種別では製造業1.1%増に対し、サービス業は4.3%増を記録している。成長率が予想を下回ったにもかかわらず、ブラジルの失業率は12年平均で5.5%と前年の6.0%から0.5ポイント改善したが、その要因にサービス業の好調があったことが分かる。

サービス業の投資額を細項目別に概観すると、商業（自動車除く）がほぼ前年と同額で57億100万ドル、

**表 主要業種別対内直接投資（国際収支ベース）**

（単位：100万ドル、%）

|                    | 2011年  |        | 2012年 |       |
|--------------------|--------|--------|-------|-------|
|                    | 金額     | 金額     | 構成比   | 伸び率   |
| 農業・畜産・鉱業（その他も含む）   | 10,297 | 6,532  | 10.8  | ▲36.6 |
| 石油・天然ガス採掘          | 5,976  | 3,679  | 6.1   | ▲38.4 |
| 金属鉱物採掘業            | 2,389  | 1,652  | 2.7   | ▲30.9 |
| 工業（その他も含む）         | 26,837 | 22,243 | 36.7  | ▲17.1 |
| 基礎冶金業              | 7,215  | 5,311  | 8.8   | ▲26.4 |
| 食料品                | 3,064  | 5,094  | 8.4   | 66.3  |
| 化学製品               | 2,226  | 1,871  | 3.1   | ▲16.0 |
| 医薬化学・医薬品           | 303    | 1,575  | 2.6   | 420.6 |
| 自動車・トレーラー・車体       | 1,395  | 1,256  | 2.1   | ▲10.0 |
| 機械・装置              | 616    | 959    | 1.6   | 55.6  |
| 機械・電気機器            | 607    | 781    | 1.3   | 28.6  |
| サービス業（その他も含む）      | 31,987 | 31,403 | 51.9  | ▲1.8  |
| 商業（自動車除く）          | 5,701  | 5,701  | 9.4   | 0.0   |
| 金融サービス・同補助         | 3,184  | 4,832  | 8.0   | 51.7  |
| 保険                 | 2,403  | 4,659  | 7.7   | 93.9  |
| 不動産業               | 2,195  | 3,684  | 6.1   | 67.8  |
| 事務・企業向けサービス        | 377    | 1,229  | 2.0   | 226.3 |
| 交通                 | 532    | 1,088  | 1.8   | 104.4 |
| ビル建設               | 1,164  | 959    | 1.6   | ▲17.6 |
| 金融サービス・非金融ホールディングス | 851    | 815    | 1.3   | ▲4.3  |
| 不動産の売買             | 409    | 364    | 0.6   | ▲11.0 |
| 合計                 | 69,530 | 60,543 | 100.0 | ▲12.9 |

出所：ブラジル中央銀行

金融サービス・同補助が51.7%増の48億3,200万ドル、保険が93.9%増の46億5,900万ドルと続く。商業は前年実績から横ばいだったが、ブラジル地理統計院（IBGE）によれば、12年の小売販売指数の伸び率は8.0%増と前年の6.6%増を上回っている。項目別では食料品や医薬品、日用品など非耐久消費財の伸び率が高い傾向が見られたが、工業全体の投資額が減少した中で食料品（66.3%増）、医薬化学・医薬品（420.6%増）がそれぞれ大幅増となった点は特筆に値しよう。また投資額がほぼ倍増した保険では、12年10月に米ユニテッドヘルスが医療保険大手アミルを総額49億ドルで買収と発表した案件が挙げられる。ブラジルでは近年の所得上昇、中間所得層の拡大により、民間医療保険市場が成長しており、この事例はその動きを捉えた投資といえそうだ。

### チリからの投資が大幅増

国別の投資額では好不調がはっきり出た。トップの米国が38.2%増の123億1,000万ドル、2位はオランダで30.5%減の122億1,300万ドル、3位はルクセンブルクの219.5%増の59億6,500万ドルだった。一方、金融危機に見舞われたスペインからの投資額は70.6%減の25億2,300万ドルにとどまった。

その中で目立ったのはチリからの投資だ。142.4%増の20億1,300万ドルを記録した。12年6月にチリの航空会社ラン（LAN）とブラジルの同業タム（TAM）の合併が完了。ブラジル中銀の資料に12年6月にチリから7億4,300万ドル、また交通業で6億6,700万ドルの投資が記録されたのは同案件を含むものと考えられる。その他、チリからは小売業などで近年積極的な投資が見られる。大手小売りチェーン、センコスッドが07年にブラジルのGバルボーザ（本社：セルジッペ州）を買収したのを皮切りに、複数の小売りチェーンを次々買収。12年のブラジル国内における小売りスーパーの売り上げランキングで第4位に浮上している<sup>注</sup>。

### 金融、食品などに日本からの投資

日本からの投資は前年比80.5%減の14億7,100万ドルと大幅減だった。これは前年に大型投資案件があったことの反動といえる。2000年代の日本からの年

平均投資額が11億400万ドルであることを考えれば、12年も高い水準を維持したといえるだろう。一方、韓国の12年の投資は18.6%減の8億7,500万ドル。11年実績で国・地域別7位に入った香港は75.5%減の5億800万ドルだった。また中国は第三国を経由した投資が多いとみられるが、3.4%増の1億8,500万ドルにとどまった。

日本からの主な投資案件を見よう。みずほコーポレート銀行が12年6月にドイツ系銀行のブラジル子会社ウェストエルビー・ブラジルの買収を発表。その他、武田薬品工業が12年7月に中堅製薬会社マルチラブ（Multilab）の買収完了（買収額5億リアル、1リアル＝約47円）を発表している。加えて、トヨタ自動車が12年8月にサンパウロ州ポルトフェリス市にエンジン工場設立を発表した他、三井物産および東京ガス子会社が12年11月にブラジルのエコジェンを買収し、天然ガスコージェネレーション（熱電併給）システムを用いたエネルギーサービス事業に参画することを発表している。前年に比べ目立った大型案件はないが、これら個別の案件からはブラジル市場の潜在性を見据えて日本企業の投資が安定的に推移している印象を受ける。

そんな中、注目すべきは日本からも金融や医薬品、そして食品などブラジルでの成長分野で投資が増えている点だ。食品分野では、日清味の素アリメントス（両社の合弁会社）が12年11月に即席麺の第2工場をブラジル北東部ペルナンブコ州で稼働した。ブラジル北東部は低所得者が多く消費市場と考えられてこなかったが、約5,300万人が住む同地域は国民の所得向上で一大消費市場へと変貌しつつある。同社が12年11月13日に発表したプレスリリースでは、「北東部の成長は顕著。11年には前年比で10%以上成長し、ブラジル国内最大の即席麺市場になった」と位置付けている。今後も年率5%以上の市場拡大を見込む。このように見ていくと、各企業は成長分野を的確に見極め投資している様子が浮かび上がる。経済成長率だけでブラジルビジネスを見るのでは、そこにある機会を見逃してしまうことになるのではなかろうか。 

注：12年の売上額は97億1,800万リアル、店舗数205店舗。ブラジルスーパーマーケット協会資料より。